味と匂い研究会 2014 年度活動報告

岩﨑陽子

０．2014 年度活動概要

当研究会は、五感の中でも比較的先行研究の乏しい「味覚」と「嗅覚」を取り上げ、それらの特性を検証した上で、感覚による世界認識の新たな在り方を、アート・デザインのかたちで提言することを目的とし2012年4月に設立された。

メンバーは京都嵯峨芸術大学の教員である真板昭夫（観光デザイン）、坂田岳彦（デザイン）、山本直樹（現代アート）、岩﨑陽子（哲学・美学）が中心となりかつ学外からも井上健司（株式会社松栄堂）、井上貴元（味香り戦略研究所）各氏を加えた構成員から成る。

前年 2013 年度は、科研費の取得、そして本学向かいに位置する高齢者福祉総合施設健光園あらしやまの「記憶と匂いに関するヒアリング調査」の実施、健光園「匂いのアート」学生プロジェクト、山本直樹の匂いのアート個展「Corpse Reviver 」、パリ・ソルボンヌ大学哲学教授シャンタル・ジャケ氏を招いた嗅覚と現代アートに関する講演会など、香り・匂いに関わる多彩な研究活動を精力的に実施した。

前年度の活動報告末尾に2014 年度の抱負として「来年度は匂いのアート作品に加え、科研のテーマでもある『匂いによるユニバーサルデザイン』の作品制作と理論構築に着手する予定である。また、作品展示、理論研究もともに海外での活躍を念頭におき、すでにいくつかの案が実現しようとしている。例えば、フランスのパリ第一大学のＫＯＤＯ研究所との共同研究や、翻訳による知見導入、パリでのアート作品展示などを企画している。当研究会が本学から世界に向って展開していくことが来年度の目標でもある。」と述べた。

2014 年度の味と匂い研究会は、この抱負通りに研究活動を海外にも展開しつつ、前年度の活動を引き継ぐかたちで研究内容を深めることができた。その成果概要として、

①京都市営地下鉄主催「駅ナカアート」プロジェクト
②フランスのパリ第一大学のＫＯＤＯプロジェクトにおける学会発表
③イタリア・フランスへの海外調査実施
④健光園における「匂いによるユニバーサルデザイン」の作品制作
⑤ 2015 年 3 月に開催される京都国際現代芸術祭PARASOPHIAに併せて開催する匂いアートプロジェクト「パリ・ボザール学生との香りアート交流」企画・準備

以下順に上記５点について詳述する。

１．ＫＹＯＴＯ「駅ナカアート」プロジェクト

2014 年 3 月より開催された京都交通局主催「KYOTO
駅ナカアート」には、本研究会の学生部組織が参加し、匂いのアート作品を２点出品し、地下鉄太秦天神川駅に展示した。また、７月には本作品にからめたワークショップを実施し、匂いのアートを多くの地下鉄利用者に楽しんでいただいた。
これら一連の活動に関しては、本紀要内の研究活動報告の中で山本直樹が報告する（●●頁参照）。

２．フランスのパリ第一大学のＫＯＤＯプロジェクトにおける学会発表

2014 年５月 23 、 24 日にパリ・ソルボンヌ大学にて嗅覚創造に関する国際学会（Colloque international : *La creation olfactive*, University Sorbonne Paris 2014）が開催された。当国際学会に岩﨑陽子が招聘され、「新しい空間認識の可能性と日本の嗅覚芸術について」という題目で発表を行った。その際、同行した山本直樹の匂いアートについて紹介し、山本が線香などを使って実際に学会内でプレゼンテーションを行った。

この発表内容については、本紀要●●頁に論文として掲載されているのでそちらをご参照願いたい。

この嗅覚創造に関する国際学会ついてここで若干の説明を行いたい。2011 年 - 2013 年フランス国費研究費（ ANR ）の支援を受けた「嗅覚アート」の実体（作品の創造課程・鑑賞のメカニズム）を調べるプロジェクト（ http://kodo.univ-paris1.fr/jp/ ）が立ち上げられた。このプロジェクトはソルボンヌ大学哲学者シャンタル・ジャケ（Chantal JAQUET ）が取りまとめを行ったもので、他に生物学者ディディエ・トロティエ（ Didier TROTIER 、 CNRS ）、社会学者ロラン・サレス

学会にて山本作品についてプレゼンテーションをおこなっている岩﨑　　2014 年 5 月 24 日

学会会場風景　当日は 100 人を超える学会員や香り関連の企業からも多数の参加があり、香りアートに対する関心の高さが伺われた。　パリ・ソルボンヌ大学　エドワール・ミルヌ大講堂にて 2014 年 5 月 24 日

（ Roland SALESSE, INRA ）が参加し共同で研究を行った。ここでは、嗅覚アートのモデルとして主に香道について研究し、その他、香りを作品創りに取り入れているアーティスト（演劇、インスタレーション、調香師）の創造過程についても取材を行っている。また日本の香りの芸道である香道の歴史と実践についても詳細な研究と、実践を行ってきた（志野流香道との交流等）。また現代の日本人嗅覚アーティストと日本における香りの美の研究活動についても調査・取材を実施した。

2014 年 5 月 23 、 24 日プロジェクトの報告会を兼ねた学会シンポジウムがソルボンヌ大学講堂で行われ、主にフランスと日本から香りアートに関心を持つ専門家・アーティストが初めて一堂に会し、各自の活動について発表を行った。岩﨑もこの場に招かれ、日本人の嗅覚芸術研究者としての発表を要請され、実施した。

他の発表者とその内容については、嗅覚に関する哲学者、美学者、神経学者などの理論サイドからの研究発表や、映画館や劇場で香りを発生させるための技術的研究などについてであり、それらの内容は日本では聞くことのできない興味深いものであった。

また実践活動としてアート作品に香りや匂いを取り入れているアーティストの発表もあり、音楽、演劇、インスタレーション作品と香りの融合の可能性についても様々な角度から学ぶことができた。また学会最後には香りの本場フランスらしく、エルメスのカリスマ調香師である Jean-Claude ELLENA 氏が招かれ「香り–詩的作用」と題する講演会を行い、大盛況のうちに幕を閉じた。

本発表の内容は他の発表者との共著として、

山本作品を手に取って興味深げに見入る聴衆　2014 年 5 月 24 日

Classiques Garnier 社から2014 年冬にフランスで学術書として出版される。

3．イタリア・フランスへの海外調査実施

匂い・香りを使い、またこれらのメディウムの特性を生かした作品制作をしたり、その理論的構築を行ったりする際に、香りの素材やその抽出法、定着方法といった技術的知見や、日本とは異なるヨーロッパの香文化としての歴史的背景を探る必要性を痛感し、また5月の国

際学会発表の際にも知的探求心を大いに刺激され、イタリア・フランスにおける匂い・香りの調査を実施することとした。

2014 年9月1日～9月 16 日まで、山本直樹と岩崎陽子で2都市を巡り、様々な香料やそれらをめぐる技術について視察を行った。

フィレンツェでは世界最古の薬局であるサンタ・マア・グラツィエ教会で様々な薬草や香料について学んまたヴェネツィアでは同時期に開催されていたヴェネツィア国際建築ビエンナーレで香りの作品を視察した。

行程の中でも特に香水の発祥地南仏グラースに建つ際香水博物館(MIP:Musée International de la Parfumerie)では香水の歴史を実際に様々な香料を嗅ぎながら体験し、その技術も詳しく学んだ。また当館の芸員に、日本から用意してきた山本の香り作品のプレンテーションも行い、香りの作品について突っ込んだ見交換を行った。

またパリでは現地の香り関連会社の主催する香道同好会のソワレに招かれ、岩崎が日本の香り文化に関するレクチャーを行った。フランス人、日本人総勢30 名程度が熱心に日本の香りの芸道について学び、真剣な表情で質疑応答をするなど、熱気に包まれた日仏香り文化交流のソワレであった。

他にも次年に予定している日仏香りのアート学生交流のためにパリのボザール・川俣正アトリエを訪問し、ボザールの学生のイメージする香りアートをいくつもプレゼンテーションしてもらうなど、刺激的な体験を多く得た。

このように海外調査によって様々な知見を収集したのはもちろん、多くの香りのアートに関連するアーティスト、研究者、キュレーター、企業の方々とのつながりをつくることができ、こうした人脈が後々の次なる芸術交流の布石となっている。

4．健光園における「匂いによるユニバーサルデザイン」の作品制作

一方、健光園関連の香りのユニバーサルデザイン研究も着々と進めており、坂田は 9 月 13 、 20 日に健光園にて「ユニバーサルデザインとは」という題目で招待講演を行っている。健光園でのプロジェクト実施のため、スタッフも含めた研究に対する共通理解の土壌を作った。

2014 年 10 月末より、前年度の高齢者福祉総合施設健光園あらしやまの「記憶と匂いに関するヒアリング調査」をもとに、記憶と匂いを結びつける匂いのユニバーサルデザインを実際に制作する学生プロジェクトを再結成した。まずはメンバーを新しく募り、新しいメンバーも含めた学生たちと調査結果を共有し、匂いによるユニバーサルデザインの制作物のアイデア出しを行った。

当初は室内に設置でき、付臭が比較的容易なモビール制作を念頭に置いて始めたが、学生のアイデアはモビールにとどまらず、様々なアイデアが出てきた。それらを皆で検討し、健光園の入居者やスタッフと密な連携を取りつつ、匂いによるユニバーサルデザインの制作物を作

フランス・グラースの国際香水博物館にて自作の香りのアート作品についてプレゼンテーションを行う。
2014 年 9 月 8 日

パリで日本の香りについてレクチャーを行う
活発な議論が交わされた。 2014 年 9 月 12 日

2014 年 10 月 20 日

成している段階である。（成果報告は来年度実施。）

５．2015 年 3 月に開催される京都国際現代芸術祭 PARASOPHIAに併せて開催する匂いアートプロジェクト「パリ・ボザール学生との香りアート交流」企画・準備

当プロジェクトの目的は、香水の都・Paris と、伝統的な香りの芸道「香道」の発祥の地・京都、両地在住の若いアーティストたちが互いの都市を訪問し、香りを中心に受けたインスピレーションをもとに交流をしながら滞在中または帰国後に香りアート制作を行うことである。

パリのアーティストから見た（嗅いだ）京都の風景はどうか、京都のアーティストはパリをどのように感じるか。制作後の香りのアート作品をお互いの都市に展示し、また市民とのワークショップなどを通じて、より広く両国の一般市民の香りに対する美的意識を広げる。

そもそも香りのアートは、従来の健常者のみを対象とした視覚至上主義のアートの世界を変える、革新的な側面を持ち、芸術のユニバーサルデザインに連なる社会的意義を併せ持つものでもある。

このような意識の下、パリ・ボザールの川俣正ゼミの学生と本学京都嵯峨芸術大学の学生によるアート交流を企画し、準備している。最初の京都での制作交流とその後の展示の成果発表は、2015 年 3 月 7 日より開催される京都国際現代芸術祭 PARASOPHIA に時期を合わせて行う予定である。

６．パリ・ボザールの学生たちと。未来の京都国際現代芸術祭PARASOPHIA で香りアートによって交流することを願いつつ

2014 年 9 月 15. 日

以上のように、2014 年度の味と匂い研究会は活動の場を海外に広げ、精力的に研究活動をすすめることができた。こうした活動を通じて痛感するのは、世界にいても日本においても香りへの関心は高いものの、それが芸術へと結びついていることは極めて稀であること、その意識すら稀薄であることであった。

しかしながらそれは裏を返せば今後の発展が大きく見込める領域だということでもあり、日本だけではなく世界に点在する、香りをアート・デザインに取り込もうと奮闘している同志たちと連携を取りながら、来年度も活発に活動していく。

特に「匂いによるユニバーサルデザイン」をテーマとした科研研究は来年度が最終年度であり、これまでの研究成果をまとめて学会発表するなど、この部分の総括を意識的に行っていく。